



4. 今後の活動に向けて

4 . 今後の活動に向けて

本業務では、広域首都圏における五街道・歴史街道を活かしたまちづくりに関する基礎調査を行い、連絡会議を開催し、その運営支援を行うことにより、街道をテーマにした地域の資源を活かしたまちづくりの方策を検討した。

街道・歴史まちづくりを具体的に進めていくにあたり、今後の活動検討に向けた提案を以下に記述する。

街道・歴史まちづくりの方向性の明確化

首都圏広域地方計画の策定にあわせて、街道・歴史まちづくりをどのようなプロジェクトとして位置づけていくかを明確にすることが必要である。

また、首都圏広域地方計画推進協議会と当該連絡会議の位置づけ、及び役割分担を整理し、市区町村の参加の枠組みを明確にしていくことが重要である。

連絡会議の継続実施

今年度の連絡会議では、基礎調査報告、事例報告、及び有識者を加えたパネルディスカッションによる意見交換を通して、街道・歴史資源の持つポテンシャルとその活かした方の方向性について確認された。

今後は、連絡会議を継続的に実施し、地域自らが考え、行動に移すきっかけづくりの場となる意見交換の場として、ワークショップや現地見学等を交えた開催形態を検討することが必要である。

また、市区町村の担当者だけでなく、地域で活動しているNPO等の活動団体のメンバーも参加し、一緒になって地域のまちづくりのあり方を検討する場の設置も重要である。

モデル的な動きの推進

上記の連絡会議の場における意見交換等を通して、街道の資源を活かしたまちづくりへの取り組み意欲が高い市区町村、またはそれらが連携した街道をいくつか選択し、他の市区町村の参考となるモデル地区として、具体的なまちづくりのケーススタディを行うことが重要である。

例えば、地域の活動団体、事業者、住民等を交えたまちづくり検討会（ファシリテーター役となる有識者の参加等）の実施、現地調査と来訪者向けの商品企画を検討するプレミアムツアー（マーケットリーダー役となる有識者の参加等）など、地域の実情とニーズに応じたさまざまな展開が考えられる。

街道・歴史まちづくりに関する基礎データの収集

街道・歴史まちづくりを具体的に進めていくにあたり、街道や地域の歴史的資源の価値の認識と客観的な評価は重要であるが、具体的な指針がないのが実情である。

また、来訪者の目線にたったさまざまなニーズを把握することにより、活動の方向性を検討することも重要である。

そのため、街道や地域の歴史的資源の価値の評価や、それらに対する来訪者のニーズ等の確認等、街道・歴史まちづくりに関する基礎データの収集を図ることが求められる。